(137) 岩手県北上市の水沢鉱山

北上市に西から流れ込んでいる和賀川の上流には湯田ダムがある。このダムによって作られた人造湖が錦秋湖である。この錦秋湖近傍、特に、南側の山中には数多くの鉱山跡がある。これら全ての鉱山が捨てられてから久しい。中世には金山であったそれらを結んだ山道があり、「秀衡街道」と呼ばれていた。現在では、その山道も復元され、ハイキングコースとなっている。

湯田ダムの下流近傍にあった廃鉱山の一つ、和賀仙人鉱山（本鉱山探査記で既報）をもう一度訪問し、右岸側にある鉱山跡に行く予定にした。そのためには和賀川を徒渉する必要があった。が、探査当日は、湯田ダムが放流中であり、水量が多く、徒渉は無理であった。そのため、予定を変更し、他の鉱山跡である「水沢鉱山」跡に向かった。

水沢鉱山については、前もって、参考文献（１）と（２）で下調べをしていたのである。水沢鉱山の主要産出鉱石は銅鉱石であった。ところで、遠方への探査に出かける時には、本命以外に予備の箇所も準備しておくことに越したことは無い。何らかの理由で本命の探査ができない場合があるからである。わざわざ、手間と時間とお金をかけているので。今回は事前の対応策が役に立った例である。

水沢鉱山への経路は次の通りである。東北道を北上してきたならば、北上ＪＣＴで、秋田自動車道に入る。そして直ぐの北上西ＩＣで下車し、１０７号に入り、和賀川に沿って上流に向かって西行して行く。北上線の岩沢駅の少し先で、左折し、南下し、水沢に沿って林道を進んでいくことになる。が、探査当日は、林道の大分手前でゲートが設置され、車両進入禁止となっていた。ゲートの近くに駐車し、徒歩で進むことになった。しかし、歩いている内に何故車両進入禁止となっているのか解らなかったが。なを、この林道は、参考文献（２）によれば、仙人山への登山ルートともなっている。この登山案内書を手にするのも良いであろう。

著者は「新岩手県鉱山誌」（高橋維一郎、南部松夫著、東北大学出版、２００３年）を現有している。この本には、岩手県内の多くの鉱山が網羅されているように見える。が、何故か「水沢鉱山」の項はないのである。水沢鉱山近傍の多くの鉱山は記述されているのにである。何故か？　水沢鉱山は非常に小規模な鉱山であったのか？　が、現地を訪問すると決して小規模の鉱山であったと思われない。学校跡、劇場跡もあるからである。水沢鉱山は一大鉱山村を形成していたのである。どうして記述されなかったのだろうか？

１回だけの探査で、且つ、探査時間も十分ではなかったが、後掲している参考資料２で示している「水沢鉱山案内図」を、現地で入手できた。非常に詳細な案内図であり、水沢鉱山がどれほど大きな鉱山であったかを確認することもできた。かつ、案内看板などがしっかりしていることから、訪問する鉱山跡としては結構な場所であると思い、探査不十分ながら、現地を公開することにした。

２０１４年９月探査

図１　国土地理院の地図サービスより複写掲載。西行してきた１０７号線を岩沢付近で南下し、水沢に入って行く。探査当日は秋田自動車道路のトンネル付近にあったゲートが閉まっており、そこから徒歩となった。予定外に時間がかかってしまった。赤色部分が探査で確認した鉱山跡である。非常に広範囲にわたっている。

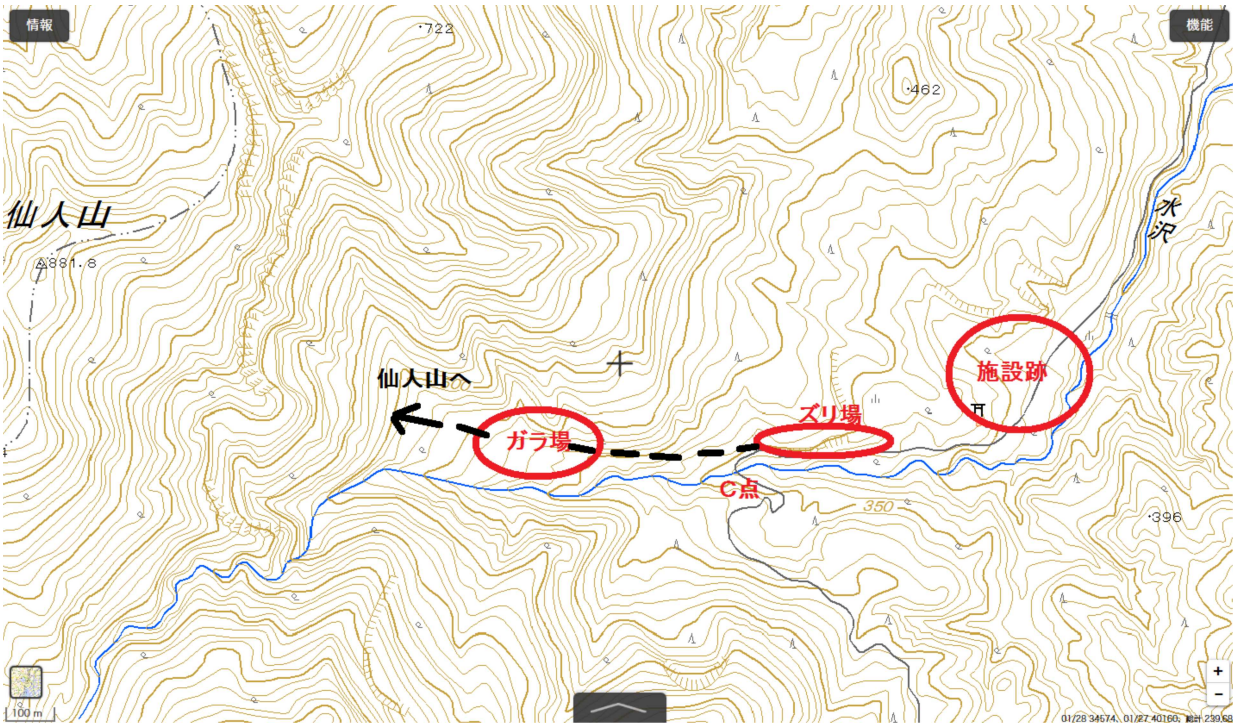
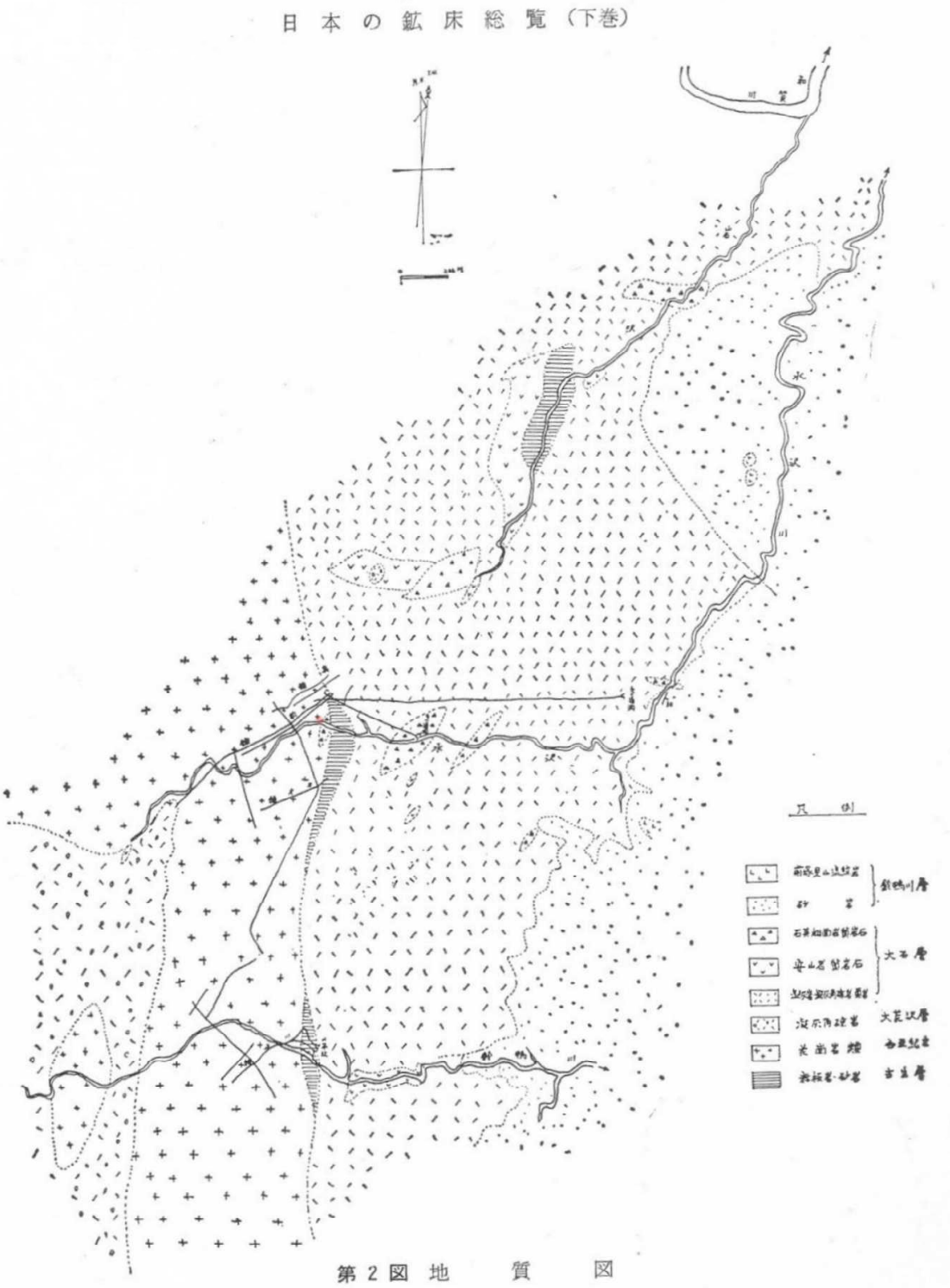


図２　図１の部分拡大図。この林道は、左端にある仙人山への登山道になっている。登山案内本を見るのがよい。もし、林道へのゲートが開いていれば、Ｃ点までは車で来れる。Ｃ点より先に入っていないが、林道はずっと先まで立派なようである。探査当日は、ゲートが閉まっていたので、２時間余り時間がかかった。林道はほぼ平坦であったので、当然帰路も２時間。ところで、歩いてみて、車の通行ができ無いような箇所は全く見当たらなかったので、当日、何故、林道へのゲートが閉まっていたのかわからなかった。ズリ場、Ｃ点付近では、林道が分岐していたり、獣道のような山道に分け入ったりしなければならないので、自分の居る位置をしっかり確認しながら進むこと。とにかく、水沢に沿って進んでいく。ガラ場より先は未確認である。が、仙人山への登山案内書にはルートが記されているので、それを手引きにすべきであろう。

参考資料



第２図　地　　質　　図

参考資料１　参考文献（１）より複写掲載。地形図の図１，２と良く対応ができる。水沢川が右上から中央へ、そして、西方に向かっている。この当たりで東西に延びている通道坑が見てとれる。参考文献２によれば「第２通道坑」。

参考資料２　施設跡にあった「水沢鉱山案内図」。在りし日は、一大鉱山村を形成いていたようである。これを手引きにすれば、現地をじっくり観察もできよう。新緑・紅葉時期にはハイキングも楽しめるので最高かもしれない。

鉱山跡写真

写真１　１０７号線を西行してくる。道角に道案内板があった。写真中で、左側で延びている本線の向こうは、北上市内方面。立っている看板には水沢鉱山名がある。これに従って進んでいく。

写真２　水沢鉱山精錬所跡。水沢鉱山の詳細な案内図もある。これがあれば、探査に困ることは無い。接写し、１頁にしたものを参考資料２として掲載しておいた。

写真３　写真２の周り一体には多くの鉱山施設跡が残っている。そのうちの一葉。

写真４　林道の脇、山側にあった神社。神社名を確認しなかった。水沢鉱山の守り神社であろう。現在の地形図中にも神社記号として記されている。ついでながら、少なくない鉱山跡には、大小いろいろであるが、このような神社、社が残されている。

写真５　写真２の近傍。鉱山施設跡の一つ。看板には「劇場跡」と記されている。今出山金山跡（本探査記で既報済み）にも、似たような看板があったことを思い出した。

写真６　施設跡から更に先へと進んでいく。右手にズリ跡らしいものがあった。この先当たりから、道が入り組んでいる。周りに気を配って先に進んでいこう。何人かでの訪問ならば、道が分岐しているところでは、別々に進み、行き先を確認しながら進むと良い。とにかく川に沿って上流へと進む。

写真７　カラミ平である。今回の探査では、ここまで来るのに結構時間がかかった。日も結構傾いてきている。帰りのことも考え、今回の探査は、ここで終了することにした。次回には是非、この当たり一体、そして、この先まで探査を行いたい。林道のゲートが開いていれば、図２中に記した「Ｃ点」まで簡単に車で登ってこられる。探査、訪問は非常に楽になり、時間も大いに短縮できる。

鉱物写真

無し。カラミ、転石は結構多い。それほどのものではなかったので採集はしていない。

参考文献

（１）「日本の鉱床総覧　下巻」、日本鉱業協会、１９６８年。
（２）「新・分県登山ガイド［改訂版］２　岩手県の山」、山と渓谷社、２０１０年。